

## 2017年3月27日 日本テレビ 定例記者会見

### 《要旨》

#### ＜発表＞

##### ・映画「PとJK」公開

3月25日に、亀梨和也さんと土屋太鳳さんが主演の映画「PとJK」が公開された。非常にいい映画なので劇場に足を運んでいただきたい。

#### 1. 視聴率動向と編成戦略

##### ・視聴率データ

先週は週間視聴率三冠王を獲得した。今年度は51週まで来たがますますの結果だった。2月27日週まで35週連続で週間三冠王を記録してきたが、WBCの1次予選、2次予選、そして決勝ラウンドと他局が素晴らしい視聴率を記録したことによって、2週間ほど三冠王は途切れてしまった。しかしこれは日本代表チームの活躍にプロ野球のファンが非常に高い関心を持たれたという結果であり、プロ野球日本代表のコンテンツの威力を改めて実感した。他局のことではあるが、素晴らしい放送だった。先週からまた通常の状態に戻ったところで三冠王を獲得でき、少し安心している。

今年度はあと1週残っているので、日本テレビの番組を視聴者に見ていただき、しっかりと年度視聴率三冠王を固めたい。

##### ・4月改編の狙い

4月改編の大きな要素は、土曜プライムタイムでのフローの改善を狙い、バラエティーを3時間続けて編成し、その後22時からドラマを置くことだ。土曜ドラマはコンセプトを見直し、従来のファミリーターゲットに加え、より大人にも見ていただけるよう、この改編に踏み切った。

#### 2. 営業状況

##### ・放送収入

営業状況は2月、3月とほぼ前年並みの水準で推移している。これは好調な視聴率を支

ンサーの皆さんに評価していただいたことによると思う。

### ・放送外収入

映画は3月18日に公開した日本テレビの幹事作品、「ひるね姫」が9日間の興行収入で3億円に届いた。また「1週間フレンズ」は幹事作品ではないが、8億円弱の興行収入。「PとJK」は、2日間の興行収入が1億7,300万円余りで、まずまずのスタートを切った。

イベントは3月18日から始まった「大エルミタージュ美術館展」は6月まで森アーツセンターギャラリーで開催する。こちらも引き続き宣伝に力を入れる。また、年度が変わり4月になると、舞台や音楽ライブ系のイベントも始まるので力を入れていく。

## 3. その他

### ・今年度を振り返って

ここまで比較的視聴率が好調で来られたことは、番組制作者が、民放の番組制作の原則、原点を踏まえ、視聴者やスポンサーの支持を得られる番組についてよく考えて番組づくりに当たっているということの積み重ねによると思う。これからもぶれずに、謙虚な気持ちを忘れず、支持される番組をつくりたい。

### ・総合視聴率に関して

1月のドラマはそれぞれいいカラーが出ていてよかったと個人的には思っているが、全体としては日本テレビに限らず、ドラマのタイムシフト視聴が非常に目立ったという印象を持っている。私たちとしてはドラマをはじめとするタイムシフト視聴率の高い番組に対して、もっと高い評価をいただきたいという思いがある。現段階では、各テレビ局がタイムシフトの視聴率評価についても、きちんと見ていただきたいとスポンサーの皆さんにお願いをし始めているところだ。

また、若い人たちを中心にテレビに対する視聴習慣等も変わっているので、私たちも工夫し努力する余地はたくさんある。テレビを取り巻く新たな環境をしっかりと見極めて番組制作に生かすことが必要だと思っている。

### ・動画配信事業に関して

日本テレビがHuluでSVOD事業を始めてほぼ3年が経過したが、この間、新たな事業者が参入したり、すでにやっているところはそれまで以上に力を入れたりするなど、市場

が大きく広がった。他方、配信事業を展開しているプレーヤーも増え、競争環境は厳しくなったと思っている。これからも市場はさらに拡大すると思うが、一方でユーザーも事業者の選別を始める時期だと思う。SVOD 事業は有料課金の配信事業なので、お金を払っても見たいコンテンツがどれだけで豊富にあるのかということが重要だ。

私たちはより良いコンテンツをたくさん供給していくことが、Hulu の魅力を高めて、そして事業として成長させることだと考えている。そのことが動画コンテンツを楽しむ人たち、それに期待している人たちのニーズに応えることになると思っている。また、より多くの人に Hulu の魅力を知ってもらうための PR にも力を入れていきたい。

#### ・ ACM への出資に関して

先日、日本テレビの子会社である日本テレビ音楽が、アンパンマンミュージアムを企画・運営している ACM の第三者割当増資を引受けた結果、50%強の株式を所有することとなり、ACM は日本テレビ音楽の子会社になった。日本テレビとしても、ACM の事業を、グループの一員としてこれまで以上に応援し、シナジー効果を上げていこうと考えている。

#### 【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員  
中山良夫 取締役 執行役員 事業局長  
福田博之 執行役員 編成局長

(了)